

北見工業大学学報

第 260 号 (2013 年 11 月号)

目 次

入 学 式	平成 25 年度秋季大学院入学式を挙行……………	3
研 究 助 成	平成 25 年度共同研究の受入状況……………	4
	平成 25 年度受託研究の受入状況……………	4
	平成 25 年度奨学寄附金受入状況……………	4
受 賞	技術部、岡田室長が 2013 年度農業農村工学会北海道支部賞を受賞……………	5
	情報システム工学科、柘井文人准教授他 2 名が情報処理学会北海道支部技術賞を受賞 ……	6
	共通講座、柳等准教授が日本カーリング協会より会長賞を受賞……………	6
諸 報	北見工業大学女子寮命名表彰式を挙行……………	7
	雪氷研究大会(2013・北見)の開催報告……………	8
	知的財産研修の実施……………	9
	父母懇談会(秋季・札幌、東京)を開催……………	10
	高大連携協力に関する協定に基づく「ピアサポート事業」を実施……………	11
	情報技術まちづくりフェア 2013……………	12
	北海道新工法・新技術展示商談会へ出展……………	13
	アグリビジネス創出フェア 2013・アグリビジネス創出フェア in Hokkaido へ出展 ……	14
	消防訓練の実施……………	15
	第 5 回北見工業大学・江原大学校(韓国)ジョイントシンポジウムを開催……………	16
	社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催……………	17
	「学生選書ツアー」を実施……………	18
	大学院進学説明会を開催……………	19

	安全衛生講習会を開催……………	20
	「ブック・プロジェクト」が発足しました……………	21
	第27回北海道技術・ビジネス交流会(ビジネス EXPO)に出展……………	22
	道内信金／大学・高専・公設試シーズ・ニーズマッチングフェアに出展……………	24
	地域再生人材創出拠点の形成 シンポジウムへ出展……………	25
	ナゴヤメッセ 2013 北海道ブースへ出展……………	26
	朝日ビジネスマッチング 2013 へ出展……………	27
	平成 25 年度北海道地区生涯生活設計セミナーを開催……………	28
	平成 25 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式……………	29
	JST 北海道地域5 大学3 高専1 公設試新技術説明会に参加……………	30
情 報 公 開	財務諸表等の開示……………	31
日 誌	10 月・11 月……………	32

= 入学式 =

平成 25 年度秋季大学院入学式を挙行

(総務課)

平成 25 年度秋季大学院入学式が、10 月 1 日(火)午前 10 時から、本学第 2 会議室で行われました。

鮎田耕一学長から、留学生を含む 6 人の入学が許可された後、「所期の目的を達せられるよう、大学が全面的にサポートするの

で、安心して学生生活を送って欲しい」旨 激励の言葉がありました。

引き続き、総務課長から役職員等の紹介が行われました。

入学者数は下表のとおりです。

大学院博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
社会環境工学専攻	1
電気電子工学専攻	2
情報システム工学専攻	1
バイオ環境化学専攻	1

大学院博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
医療工学専攻	1



新入生の皆さん



お祝いの言葉を述べる鮎田学長

= 研究助成 =

平成25年度共同研究の受入状況

平成25年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等
機械工学科	教授	佐々木 正史	環北極陸域システムの変動と気候への影響	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所
社会環境工学科	教授	亀田 貴雄	地球温暖化における北極圏の積雪・氷河・氷床の役割	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所
社会環境工学科	准教授	舘山 一孝	北極海航路の利用可能性評価につながる海水分布の将来予測	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所
応用研究推進センター	特任教授	山岸 喬	北見産ハマナス由来の芳香成分の抽出、分離および実用化	株式会社ハーバー研究所
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	制震デバイスの低温下における性能評価に関する研究	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所
機械工学科	教授	山田 貴延	下水処理場内未利用エネルギーの有効利用に関する研究	北見市企業局
マテリアル工学科	准教授	伊藤 英信	GMT材料の高機能化に関する研究	一般社団法人 北見工業技術センター運営協会
電気電子工学科	教授	柏 達也	マイクロ波の電磁場解析及び熱解析に関する研究	独立行政法人日本原子力研究開発機構
機械工学科	教授	大橋 鉄也	先端半導体デバイスにおける応力・転位解析とデバイスシミュレーションとの連携解析	学校法人五島育英会東京都市大学
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	北見市内における詳細な地盤内凍結領域の把握	北見土木技術協会

平成25年度累計65件

平成25年度受託研究の受入状況

平成25年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研 究 題 目	委託機関	所要経費
社会環境工学科	教授	川村 彰	北見市G空間情報とICTの連携活用事業	総務省	円 3,526,000

平成25年度累計15件

平成25年度奨学寄附金受入状況

平成25年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
社会連携推進センター	特任教授	大島 俊之	橋梁耐震補強用ストッパーの寒冷地適用研究に対して	オイレス工業株式会社	円 500,000
社会環境工学科	准教授	中村 大	実物大補強土壁の凍上・融解耐久性に関する実験研究のため	岡三リビング株式会社	250,000
社会連携推進センター	センター長	川村 彰	オホーツク地域の行政・民間団体との共同研究・研究交流、及び技術指導、教育、開発等を推進するため	北見工業大学 社会連携推進センター推進協議会	330,000
社会環境工学科	准教授	中村 大	実物大補強土壁の凍上・融解耐久性に関する実験研究のため	東京インキ株式会社	250,000
社会環境工学科	教授	三上 修一	オホーツク地域橋梁長寿命化計画策定の工学的検討	株式会社中神土木設計事務所	2,230,500
社会環境工学科	教授	中山 恵介	洪水氾濫の研究のため	株式会社 福田水文センター	500,000

平成25年度累計40件

= 受賞 =

技術部、岡田室長が2013年度農業農村工学会北海道支部賞を受賞

(技術部)

このたび、技術部・岡田包儀室長が、公益社団法人農業農村工学会北海道支部より、2013年度農業農村工学会北海道支部賞を受賞しました。

当学会は昭和4年に農業土木学会として創立され、昭和27年8月には農業土木学会北海道支部が創立されました。平成19年に農業農村工学会に改称し、平成24年4月には社団法人から公益社団法人に移行しました。

農業土木学は、灌漑・排水等の土地改良を行うための技術学として明治の学術を含む近代化の過程で成立しました。今日、農業農村工学の役割は、地球環境と自然環境を保全しながら生産性の高い食料生産の基盤と快適な農村空間を整備・維持することにあります。その具体的な課題は多様です。また、これに立ち向かう研究手法・技術手法も工学的手法を主としながらも多様になっています。しかし、現場の具体的な状況に応じて、調査や実験による確かな事実に基づいて問題解決の方策を創造的に生み出す現場主義は、研究・技術分野の一貫した伝統になっています。

当学会は、大学や研究機関の研究者を核としながら、多数の技術者が参加し、官民学が連携して社会が求める課題に取り組み、技術と学術を高めてきたことが特徴です。

今回の受賞対象となった研究業績「表面劣化コンクリートの強度推定手法の検討」は、本学の井上真澄准教授と共に共同研究企業等も受賞されています。

この度の受賞理由については、次の内容となっています。

「現在、農業用排水路の維持管理には、改修(新設)という手段から補修という手段に推移している。そのため鉄筋コンクリートの機能診断技術の向上が望まれている。

著者らは、近年、この点に注目し、従来の非破壊強度試験法であるリバウンドハンマー法からより簡易である機械インピーダンスハンマー法を提案した。

従来から用いられているリバウンドハンマー法はコンクリートの平滑な表面を対象としているため、コンクリート表面の研磨処理等が必要となり、劣化したコンクリート水路等では、その適応が難しかった。しかし、この機械インピーダンスハンマー法による試験方法は、リバウンドハンマー法と比較し、劣化したコンクリート表面にも対応が可能であり、測定回数が少なくても推定結果が安定していることを明らかにした。

本研究は、今後の農業水利施設におけるコンクリート構造物診断への寄与が期待され、極めて有用な手法を提案した研究であり、これを評価する。」との、評価内容が添えられています。



受賞式の様子

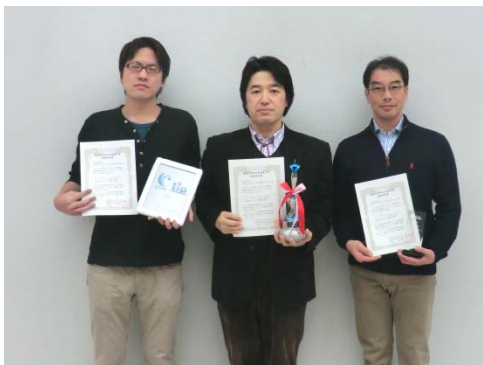
情報システム工学科、榊井文人准教授他 2 名が 情報処理学会北海道支部技術研究賞を受賞

(情報システム工学科)

このたび、情報システム工学科・榊井文人准教授、大学院 1 年・上野裕暉氏、共通講座・柳等准教授が10月5日(土)に室蘭にて開催された情報処理北海道シンポジウム 2013において、技術研究賞を受賞しました。

情報処理北海道シンポジウムは、情報処理学会の一学会として毎年開催されており、

道内を中心に多くの研究成果が発表されています。今回、榊井准教授らの研究「カーリングインフォマティクスに向けて -タブレット端末を利用した戦術支援システムの開発と運用-」は、同シンポジウムにおいて実用性の高い優れた技術研究であると評価されました。



受賞者(左から上野氏、榊井准教授、柳准教授)



技術研究賞

共通講座、柳等准教授が 日本カーリング協会より会長賞を受賞

(共通講座)

共通講座、柳等准教授が、ユニバーシアード冬季大会において銅メダルを獲得した日本代表チームに帯同し、チームの支援に

尽力した功績を認められ、日本カーリング協会より会長賞を受賞されました。



会長賞を受賞した柳准教授

= 諸報 =

北見工業大学女子寮命名表彰式を挙

(学生支援課)

9月13日(金)、本学において、「北見工業大学女子寮命名表彰式」が執り行われました。

近年、本学の女子学生が増加傾向にあり、大学が実施したアンケートでも、女子寮設置に対するニーズが高いことから、定員24人の女子寮を新設することとなったものです。

その女子寮の名称を本学学生から募集し

たところ113点の応募があり、厳正な審査の結果、最優秀賞に情報システム工学科(4年)菅原詩織さん(作品：『北桜寮(ほくおうりょう)』)、優秀賞に機械工学専攻(1年)杉山琢郎さんが選ばれました。

表彰式では、鮎田耕一学長から2人に表彰状と副賞が手渡され、続いて祝福のことばがありました。



左から、最優秀賞の菅原さん、鮎田学長、優秀賞の杉山さん

雪氷研究大会(2013・北見)の開催報告

(社会環境工学科)

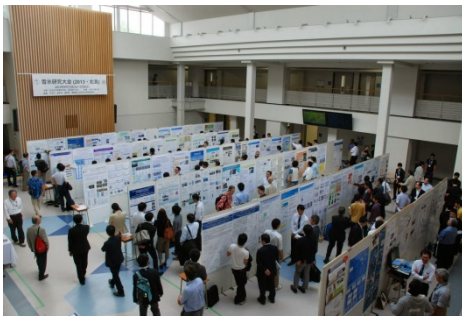
9月17日(火)から21日(土)までの5日間、本学を会場として雪氷研究大会(2013・北見)が開催され、全国から391名が参加しました。本大会は(社)日本雪氷学会と日本雪工学会が合同で年に1回開催する全国規模の大会です。1996年に北見で日本雪氷学会全国大会を開催しましたが、この時には北見市民会館を主会場として実施したので、本学を主会場として雪氷学の全国大会を開催するのは初めてでした。社会環境工学科高橋修平教授を実行委員長、亀田貴雄教授を副実行委員長とする実行委員会を構成して、準備・運営に当たりました。本学には本大会を共催して頂きました。

大会では口頭146件、ポスター147件の発表がありました。この中には今年の8月に学術雑誌Natureで発表された「氷期が10万年周期で起こることを説明する氷床変動仮説」や南極ドームふじ基地で掘削された3035.22m深の氷床コアの解析結果(過去70万年間の気候環境変動復元)などの地球科学的発表、今年3月3日に北海道東部で発生した吹雪災害の状況についての防災的な視点の研究など、多くの興味深い発表がありました。

ポスター発表はアトリウムを会場として147枚のポスターを同時に掲示し、半分ごとにポスターコアタイム(口頭発表時間と重ならないポスター発表だけの時間)を各1.5時間設け、十分に議論できるようにしました。これは本学にアトリウムという24m×19mの空間があるからこそできた発表方法で、参加者の方からも好評でした。

一般市民も対象にした公開講演会では、北海道立北方民族博物館主任学芸員の中田篤先生に「北に暮らす人びと：人類の寒冷地適応と文化」、本学の柳等先生に「カーリングのここがおもしろい!」、国立極地研究所名誉教授の渡邊興亜先生に「雪氷大型計画を担った人達ー北見の思い出ー」と題して話をして頂きました。

9月19日(木)夕方にはホテル黒部にて270名の参加者を得て、懇親会が開催され、鮎田耕一学長などによる歓迎の挨拶の後、祝宴となりました。大会の最終日の21日(土)には一般市民対象の雪氷楽会(せっぴょうらくかい)が開催され、333名の参加者が34の雪と氷の実験を楽しみました。



アトリウムでのポスター発表の様子



公開講演会での柳先生

知的財産研修の実施

(研究協力課)

平成25年度知的財産研修が10月8日(火)、16日(水)、17日(木)の3日間に渡り実施されました。この研修は、職員に国家資格「知的財産管理技能士(3級)」取得に必要な知識を習得させることにより、知的財産業務の円滑な実施体制を整備することを目的としたもので、本学客員教授及び特許事務所弁理士を講師として招き実施しました。

近隣大学との連携強化を図るため、他大学からの受講生を募集し、本学職員5名に加え、旭川医科大学から1名が講義を受講しました。

受講生は、知的財産管理技能士3級の合格を目指して講義に熱心に耳を傾けていました。



講義の様子

父母懇談会(秋季・札幌、東京)を開催

(学生支援課)

例年開催している「父母懇談会(秋季・札幌、東京)」を、札幌会場は10月12日(土)北海道大学学術交流会館、東京会場は10月27日(日)学術総合センターを会場としてそれぞれ実施しました。

札幌会場には、103組131人の父母が参加し、近藤和雄学生後援会会長からは、後援会の活動状況が報告されました。続いて、田牧純一副学長から挨拶の後、「本学の教育及び就職状況等」について説明があり、様々な情報が父母に提供されました。

東京会場には、65組83人の父母が参加し、

全体説明会において、田牧副学長から札幌会場と同様の説明がありました。

札幌、東京いずれの会場とも、個別面談では、修学状況、就職等について父母から質問が出され熱心にやりとりが交わされました。また、全体説明会の後、個別面談までの待ち時間には、田牧副学長が父母からの質疑に応答する時間を設け、語学研修、南極に関すること、公務員試験、就職、大学院への進学、奨学金など多岐にわたり質疑応答が行われました。



個別面談の様子(札幌)



全体説明会の様子(東京)

高大連携協力に関する協定に基づく「ピアサポート事業」を実施

(学生支援課)

10月12日(土)に北見工業大学と北海道遠軽高等学校との高大連携協力に関する協定に基づく「遠軽高校ピアサポート事業」を実施しました。

本事業は、本学の学生が遠軽高校を訪問し高校生に学習指導を行うもので、当日は学部学生・大学院生17名が学習指導に当たりました。

ピアサポートの学生は、生徒が授業を受けている間は一緒に授業に参加するなど、高校時代に戻ったようでした。

最初はどちらも緊張した面持ちでしたが、グループごとに受験体験座談会や、昼食をとりながら交流を深めるうちに、すっかり

打ち解けた様子で指導を行っており、学習指導では黒板に図を書いて丁寧に説明をするなど、生徒からの質問に備え準備した成果が十分に発揮できたようでした。

また、どの学生も真剣に取り組んだ甲斐があり、マンツーマンで指導を受けた高校生からはわかりやすいとの声が上がっていました。

今回は、本学の学生が高校を訪問し高校生に学習指導を行うという初めての企画でしたが、本事業を通して、ピアサポートの学生は学習指導方法を体得することができ、今後の自身の進路等を選択するうえで貴重な体験をすることができたものと思います。



学習指導の様子①



受験体験座談会



グループでの昼食



学習指導の様子②

情報技術まちづくりフェア 2013

(社会連携推進センター)

10月18日(金)、北見地域GIS・GPS研究会を中心とする、情報技術まちづくりフェア実行委員会(委員長川村 彰 社会連携推進センター長)の主催で5年ぶりに本学を会場に開催されました。

総合研究棟1階では企業等20機関の展示ブースが開かれ、GIS・GPSの活用等情報技術に係る機器が紹介されました。また、2階多目的講義室においては講演会が開催され、北海道庁、北海道大学、北海道総合通信局、企業と各機関の立場や取り組みについて講演されていました。

これらに加え、参加者にはブースの説明

を何カ所かで聞いてもらい、受付で配布されたカードに印鑑をもらうことで、抽選会に参加できるというお楽しみも用意されており、景品には今話題のNexus 7なども用意され、大いに盛り上がっていました。

今回もフェア開催に尽力いただいた北見地域GIS・GPS研究会は本学や日赤看護大学の教員も関係している産学官連携による研究会活動です。これからも多方面で協力関係を続けていけるよう、また研究会活動も活性化していけるよう連携して行きたいと思えます。



盛況な展示ブース



講演会風景

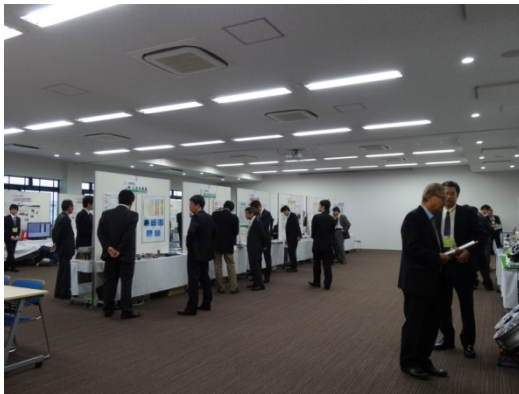
北海道新工法・新技術展示商談会へ出展

(社会連携推進センター)

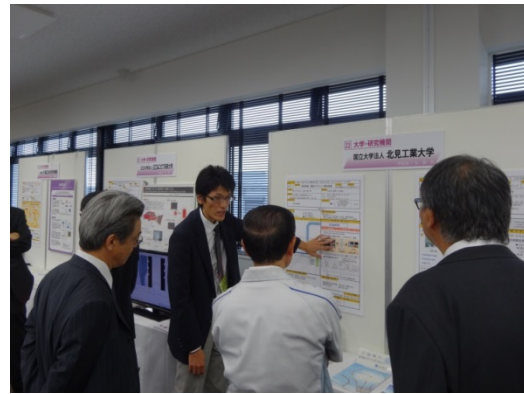
10月23日(水)～24日(木)の両日、宮城県黒川郡のトヨタ東日本学園で開催された北海道新工法・新技術展示商談会に参加し、北見工業大学で行われている自動車関連技術を広報しました。このイベントは、北海道内企業の自動車産業への参入を促進するため、自動車メーカーに対し道内企業・研究機関の技術・製品等についてアピールすることを目的としています。北海道と中小企業基盤整備機構北海道本部の共催により毎年全国各地で開催されており、今年はトヨタ自動車東日本株式会社の協力を得て開かれました。

今回は、北海道内の21企業、3大学・研究機関からの出展が実現しました。北見市からは、北見工業技術センターと株式会社倉

本鉄工所が共同で、本学二俣名誉教授が開発の中心的な役割を果たした超撥水性皮膜溶射技術について、また本学は社会環境工学科川村彰教授・富山和也助教の「車両挙動解析による路面プロファイルのリアルタイム計測技術」とマテリアル工学科阿部良夫教授の「スマートウィンドウ用高耐久性水酸化物薄膜の作成技術」について展示を行いました。トヨタ自動車東日本株式会社からは、社長をはじめとする経営陣や静岡県裾野市にある研究・開発担当部署の関係者など、大勢の来訪者があり熱心に情報交換が行われました。本学の展示ブースも、技術の紹介にとどまらずさらなる研究推進へとつながる有意義な議論の場となりました。



展示会の会場



技術説明を行う社会環境工学科富山助教

アグリビジネス創出フェア 2013・ アグリビジネス創出フェア in Hokkaido へ出展

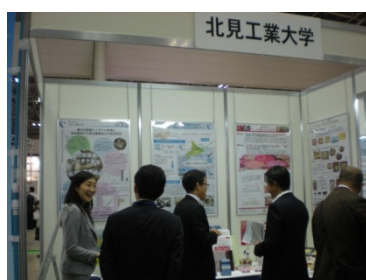
(社会連携推進センター)

10月23日(水)～25日(金)に、東京ビッグサイトで開催された「アグリビジネス創出フェア2013」、11月29日(金)・30日(土)にサッポロファクトリーで開催された「アグリビジネス創出フェア in Hokkaido」に出展しました。本学では、平成18年度から工学的素養を持つ土木・建設業の技術者を主な対象とし、農業関連分野に参入する人材を育成する「工農教育事業」を進めています。その取り組みがきっかけとなり、これらのイベントに平成19年度より継続して出展しています。

今回は、工農教育の事業紹介とともにバイオ環境化学科佐藤利次准教授が取り組む、「高付加価値シイタケ栽培と培地から得る酵素成分の有効活用に関する研究」について紹介しました。それぞれの会場では、研

究や技術のプレゼンテーションの場が設けられており、北見工業大学は、展示の見どころや本学が取り組む研究および「工農教育事業」について紹介し、多くの方々にブースに足を運んでいただきました。

本イベントは、「食・農」に関連した地域性を強く出すことができる場ですが、工科系の大学が出展している例は多くありません。本学の第1次産業に関する教育・研究を展開することによる地域連携・社会貢献への取り組みについて、本学の特徴を強く意識していただける場となりました。北海道の会場では、産業界だけではなく、一般の方にも数多く来場いただきました。マッチングの他にも大学広報として価値のある場であると感じました。今後も積極的な参加を考えています。



アグリビジネス創出フェア2013(東京ビッグサイト)での北見工業大学出展ブース



アグリビジネス創出フェア in Hokkaido(サッポロファクトリー)

(左：ブースプレゼンテーション、右：出展ブース)



消防訓練の実施

(施設課)

10月24日(木)に、本学情報システム工学科2号棟4階を仮想火元とする消防訓練を実施しました。

昨年度と同様に、震度5強の地震による火災を想定し、避難訓練前に身の安全を確保する、火の始末がなされているかを確認する訓練も行いました。その後火災報知機が発報し、建物内にいる学生・教職員の避難訓練に加え、初期消火・避難誘導・負傷者搬送などの訓練も行われました。この一連の行程は、予定していたよりも速やかに行う事ができました。

今回の訓練では、北見消防組合消防本部が所用により立ち会うことが出来ませんでした。そのため、(有)旭防電様の指導の下、避難訓練終了後に消火器の取り扱い訓練及び屋内消火栓による放水訓練を行いました。普段生活する上では、まず使用する機会のない消火器と屋内消火栓の取扱訓練に参加した学生は、貴重な経験になったと思います。

最後は学長の代行で自衛消防隊長を務めた高橋信夫理事の挨拶で締めくくられ、消防訓練は無事終了しました。



初期消火の訓練を行う学生



担架に乗せた仮想負傷者の搬送



屋内消火栓の取扱訓練の様子



高橋理事による締めの挨拶

第5回北見工業大学・江原大学校(韓国) ジョイントシンポジウムを開催

(社会連携推進センター)

本学と江原大学校(韓国)との第5回ジョイントシンポジウムを、10月25日(金)に江原大学校春川キャンパス医生命科学科会議室において開催しました。本シンポジウムは、江原大学校Well-being特産物産業化地域革新センターと本学地域共同研究センター(現社会連携推進センター)が平成18年に包括協定を締結し、相互の連携を密にすることを目的に、お互いの大学を会場に隔年で開催しています。今年江原大学校が当番校であり、「地域資源の高付加価値化のための技術開発戦略」をテーマに開催しました。

江原大学校の辛総長からの挨拶の後、江原大学校Well-being特産物産業化地域革新センターからは崔教授が、本学社会連携推

進センターからは有田敏彦教授がそれぞれのセンターの活動状況について報告しました。

その後、本学の山岸喬特任教授が「雑魚及び魚の廃棄部分を利用した商品開発」と題し、サケ皮やサケ白子を活用した商品開発事例等の紹介や黒にんにくの研究開発について講演しました。また、東京農業大学と江原大学校からも地域資源を活用した取組について4つの発表が行われました。

今回のシンポジウムは、地域の特産物や副産物を利用した高付加価値製品開発への取組について重要な情報共有の場となり、また、日々進歩する製品開発技術や専門的知識の理解を深める非常に有益な学びの場になりました。



講演する山岸特任教授



報告する有田教授

社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催

(社会連携推進センター)

10月28日(月)に、今年度第1回社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議が本学で開催されました。

本会議は、昨年まで2回連続してオホーツク総合振興局が開催するオホーツク地域経済活性化検討会議と合同で開催していましたが、今年は社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議として単独で開催しました。

社会連携推進センターでは、昨年からの地域との情報交換を密にして連携を強化することを目的に、地域の市町村を訪問する活動を行って来ました。

市町村訪問を通じ、新たな信頼関係を築き、社会から敷居が高いと誤解されているイメージを払拭したいとの思いから開始したものです。

市町村訪問の効果があり、今年度の社会連携推進センター産学官連携推進協力員にはオホーツク地域にある18市町村のすべて

から委員の推薦を得ることが出来ました。

単独開催とした今年度の社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議は、北見市など地域自治体担当者に加え、本学の包括連携協定の締結先である東京農業大学など周辺大学、各金融機関や北海道開発局網走開発建設部など道の機関の参加がありました。さらに、オブザーバーとして北海道経済産業局やオホーツク総合振興局などからの参加もあり、本学関係者を含め総勢40人が出席しました。

会議では、昨年からの継続している市町村訪問を通じて得た地域の課題やニーズをテーマとして、活発な意見交換を行いました。

会議の中では、本学スーパー連携大学院が実施した、地域の課題把握のためのアンケート調査結果について報告もあり、各出席機関から地域への様々な情報提供がありました。



討議風景



議長の川村センター長 挨拶

「学生選書ツアー」を実施

(情報図書課)

図書館では、10月30日(水)、平成25年度第2回「学生選書ツアー」を実施しました。

事前にポスター等により参加学生を募集し、学部学生及び大学院生が10人ほど参加しました。

学生たちは、趣味や資格、一般図書等、

各々興味のある図書を選んだ後、その本を選んだ理由をカードに記入しました。

館内の展示コーナーに、学生たちが選んだ図書と選んだ理由が書かれたカードを展示しました。



これから選びます！
予め選んでいた参加者もいました。



館内の展示コーナー

大学院進学説明会を開催

(入 試 課)

10月31日(木)、本学のA107講義室を会場として学部3年次学生及び希望者を対象に大学院進学説明会を開催しました。

本学大学院工学研究科博士前期課程は、平成25年度入試から募集人員及び選抜方法等を変更し、一般入試に出願する場合、要件を満たす志願者は推薦入試を併願することが可能となりました。

今回の説明会では、入試課職員から、推薦要件やスケジュール、TOEICテストの受験等について説明し、142人の参加者が熱心に耳を傾けていました。

また、説明会の最後には、田牧純一副学長からスーパー連携大学院についての説明がありました。



入試課職員による説明



田牧副学長によるスーパー連携大学院の説明

安全衛生講習会を開催

(総務課)

11月6日(水)、多目的講義室にて平成25年度第2回安全衛生講習会が行われ、教職員約30人が参加しました。

はじめに、高橋信夫環境安全センター長から、実際に体を動かすことで今後の健康の保持・増進を図るのを目的にピラティス講習を実施した第1回に続き、今回はメンタルヘルスと生活習慣病予防の2つのテーマで行う旨の挨拶がありました。

1つ目は、北海道オホーツク総合振興局保健環境部北見地域保健室企画総務課保健推進係長の森本信子氏より「働き盛りの心の健康づくり」と題してお話いただきました。

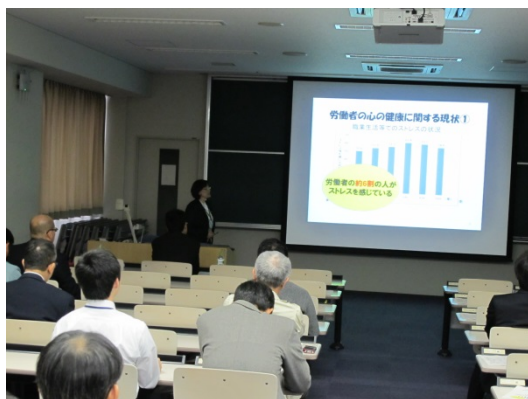
職場環境の変化により労働者がストレスにさらされ易くなり、特に30代から40代の働き盛りの世代にうつ病が増えていること、うつ病は「こころのかぜ」であり誰にでも起こりえる身近な病気であると共に、早期

発見と適切な治療で治ること等を、自己診断チェックを交えながら説明されました。

2つ目は、同室健康推進課健康増進係専門員の久保田寿広氏より「生活習慣病予防」と題してお話いただきました。

本年9月実施の一般定期健康診断等の結果を見ながら、項目毎に注意点等を解説いただき、自分の状態を知り、同じ食生活を送る家族との情報共有及び協力が重要であること、バランスの良い食生活や無理のない運動など、出来ることから生活習慣の改善に取り組むのが肝要であるとの説明がありました。

時折ユーモアを交えた分かりやすい内容に、参加した教職員は熱心に聴き入りながら、メンタルヘルスに対する認識と対処法への理解を深めるとともに、食生活の改善などを通じた生活習慣病予防に関する認識を新たなものにしていました。



講演する森本氏



講演する久保田氏

「ブック・プロジェクト」が発足しました

(情報図書課)

11月7日(木)、読書推進に関する事業を行うことを目的に、学生によるボランティア団体「ブック・プロジェクト」が発足しました。

「ブック・プロジェクト」では、学生スタッフが自らイベントを企画し、実施していきます。

記念すべき第1回目の企画は、試験に役立つ図書の展示です。

バイオ環境化学科及びマテリアル工学科

の試験対策図書、将来の仕事をイメージできるような図書を中心に選びました。

現在、図書館の展示コーナーに展示していますので、学生の皆さんは是非参考にしてください。

現在は、4名のスタッフ(情報電気エレクトロニクス系1名、バイオ環境化学科2名、マテリアル工学科1名)で活動していますが、今後スタッフを増やし活動の幅を広げたいと考えています。



「ブック・プロジェクト」スタッフと吉田図書館長

第27回北海道技術・ビジネス交流会(ビジネスEXP0)に出展

(社会連携推進センター)

11月7日(木)～8日(金)に、アクセスサポロを会場に開催されたビジネスEXP0に出展しました。本イベントは、道内企業をはじめとした「産」・「学」・「官」による製品・技術等の情報がこの交流会で一堂に会する北海道最大級の規模の技術マッチングイベントです。今年は約1万9千人の来場がありました。

本学は、「学術・試験研究機関展示ゾーン」にて、大学の紹介とともに本学の4つの研究推進分野である「エネルギー・環境」「バイオ材料科学」「情報科学」「社会基盤」に関連する研究の紹介を行ないました。

このイベントには、出展者や来場者の立場で本学の卒業生も数多く参加しています。本学ブースへは仕事の面での興味だけではなく、懐かしさで立ち寄るなど、卒業生に母校への愛着を持っていただいていることを知ることができました。また、学生の就職・求人の話をしていただいた卒業生もいました。本イベントは、研究紹介や大学紹介とともに、在学生のためにも価値ある場

であることを再認識しました。私達自身にとっても、このようなイベントでの大学広報の重要性を確認する場ともなりました。

本イベントでは、毎年様々な講師の方をお呼びして、講演会やビジネスセミナーも開催しています。今年のビジネスセミナーでは「『産学官金連携』で地域の活性化を！！～地域の信用金庫の取り組みと今後の活動への期待～」と題し、産学官と金融機関との連携の可能性に関するパネルディスカッションが開催されました。本学の内島産学官連携コーディネータがパネリストとして学術機関の立場から北見工業大学が取り組む産学官金連携について発表しました。会場では、地域の小中学生を対象とした理科教室の実施や高校生を対象とした科学講義などについて、地域の信用金庫がコーディネータとなって大学と連携している取り組みなどについても話題となりました。これからの金融機関との連携について、広い視点から議論が行われました。



ビジネスEXP0展示会場



北見工業大学出展ブース



ビジネスセミナー「『産学官金連携』で地域の活性化を！！～地域の信用金庫の取り組みと今後の活動への期待～」パネルディスカッションの様子

道内信金／大学・高専・公設試 シーズ・ニーズマッチングフェアに出展

(社会連携推進センター)

11月7日(木)～8日(金)アクセスサッポロを会場に開催された「道内大学・高専・公設試まとめてシーズ・ニーズマッチングフェアWith信用金庫」に参加し、北見工業大学の技術シーズを紹介してきました。このイベントは本学を含む道内の信用金庫・大学・高専・公設試が主催となり、地域の研究機関が生む成果を地域ニーズの解決に役立たせることを目的に開催されました。

およそ2万人の来場者があるビジネスEXPO「第27回北海道 技術・ビジネス交流会」との同時開催、主催各機関による独自の資源の持ち寄り、そして道内信用金庫の地域情報を活かした集客など、地味ではあるものの価値ある取組への挑戦でした。当日の

集客やフェアの運営など多くの課題を抱えてのスタートでしたが、大学の地域への貢献を図る新たな場として将来的に定着していくことが望まれます。

本学から発信した技術シーズは、バイオ環境化学科・佐藤利次准教授の「高付加価値しいたけ栽培技術」、社会環境工学科・川村彰教授・富山和也助教の「路面評価技術」、情報システム工学科・前田康成准教授の「意思決定を支援する情報処理技術」、社会環境工学科・高橋修平教授の「雪の冷熱利用技術」の計4件でした。それぞれが地域への活用を強く意識した研究の成果であり、新たな地域貢献の実現に向け発展していくことが期待されます。



高付加価値シイタケ栽培技術について紹介する佐藤准教授



新たな路面評価技術を紹介する富山助教



新規意思決定情報技術を紹介する前田准教授

地域再生人材創出拠点の形成 シンポジウムへ出展

(社会連携推進センター)

11月8日(金)、東京都内のイイノホール&カンファレンスセンターにて、「地域再生と地(知)の拠点としての大学への期待～大学と地域が連携したひとづくり、まちづくり地域再生への歩み～」と題した、社会システム改革と研究開発の一体的推進：地域再生人材創出拠点の形成シンポジウムが開催され、本学の取組を出展しました。

この企画は全国の大学等の中から、独立行政法人科学技術振興機構により選ばれて参加する人材育成事業成果パネル展で、本学が取り組んできた「新時代工学的農業クリエーター人材創出プラン」いわゆる工農教育事業もそのひとつです。

また、同時に「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」いわゆるCOCと呼ばれる地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的とした事業の採択大学パネル展と両事業の成果事例報告、COCに関するパネルディスカッションが行なわれました。

今回のシンポジウムの中で本学の活動に対して独立行政法人科学技術振興機構からは一定の評価をいただいたこと、また、COCに関して次年度以降申請におけるヒントを得ることができたのではないかと考えています。



パネル展の様子

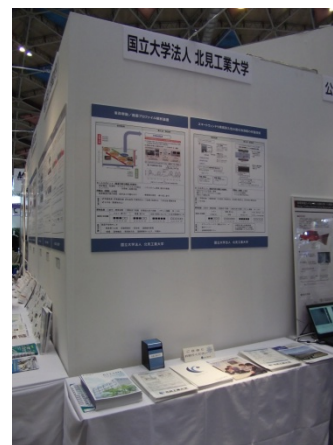
ナゴヤメッセ 2013 北海道ブースへ出展

(社会連携推進センター)

11月13日(水)～16日(土)の4日間、名古屋市国際展示場(ポートメッセなごや)を会場としたナゴヤメッセ2013が開催されました。本フェアは中京圏を中心とした自動車関連企業、名古屋地域のモノづくり企業が出展参加する日本最大級の異業種交流展示会です。今年は、833社・団体が出展しました。北海道では、北海道内企業の自動車産業参入の促進を図るため、道内企業の技術・製品等売り込むことを目的として、昨年に引き続き北海道の自動車関連の企業や学術機関による北海道ブースを会場内に設けました。この北海道ブースには14企業・4大学が出展しました。今年は北見工業大学もこの北海道ブースに出展しました。本学は社

会環境工学科川村彰教授の「車両挙動/路面プロファイル解析装置」技術とマテリアル工学科阿部良夫教授の「スマートウィンドウ用高耐久性水酸化物薄膜の作製技術」の2つの技術を紹介しました。フェアの会場には4日間で6万人の来場があり、北海道ブースへも多くの来場がありました。

本学は中京圏出身の学生が多い中、北見工業大学の展示には求人目的の企業や毎年学生が就職している企業からの来場がありました。本学は今回のような中京圏での技術紹介を行う十分な機会を持っておらず、本フェアは大学のPRにおいても貴重な場となりました。



ナゴヤメッセ2013北海道ブース会場の様子と北見工業大学展示ブース

朝日ビジネスマッチング 2013 へ出展

(社会連携推進センター)

11月14日(木)に、東京ドームで開催された「朝日ビジネスマッチング」に出展しました。本フェアは今回が初めての開催です。朝日信用金庫と独立行政法人科学技術振興機構は大学などの研究成果を産業界に移転し、産業振興、イノベーション創出につなげていくことを目的とし包括協定を締結しました。本フェアはその活動の一つとして、開催されたものです。会場には、朝日信用金庫がネットワークを持つ地域の中小企業が数多く参加し、120の企業、全国16の学術機関・大学が出展しました。WEB出展企業を含めると約500社となる大規模なフェアとなりました。会場では、本学を含む学術機関によるショートプレゼンテーションも行われました。

本学からは、バイオ環境化学科佐藤利次准教授が取り組む「高付加価値シイタケ栽培

と培地から得る酵素成分の有効活用に関する研究」、そして工学的素養を持つ土木・建設業の技術者を主な対象とし農業関連分野に参入する人材を育成する「工農教育事業」について紹介しました。ショートプレゼンテーションにおいても、「第1次産業活性化に向けた地元産品活用機能性食品等の開発」と題し、それらの研究や取組及び展示の見どころなどを紹介し、多くの方々にブースへ足を運んでいただきました。一日限りのフェアでしたが、来場者の多くを占める中小企業の高い熱意を感じることができました。また具体的な技術相談が進むなど、新しいネットワークが生まれています。本フェアは北見工業大学の技術を紹介する有効な場のひとつと考えられるため、今後も積極的に参加していくことを考えていきます。



朝日ビジネスマッチング2013会場の様子と北見工業大学展示ブース

平成 25 年度北海道地区生涯生活設計セミナーを開催

(総務課)

11月15日(金)、多目的講義室にて平成25年度北海道地区生涯生活設計セミナーが行われました。

本セミナーは、生涯生活設計の確立に資するとともに、勤務に対する意欲の向上と勤務能率の増進を図ることを目的として、文部科学省共済組合と北海道地区の国立大学法人の共催により毎年実施しているものです。

今年度は本学が当番校となり、北海道地区の40歳以上の文部科学省共済組合員約20人が参加しました。

生涯生活設計、退職共済年金、定年後の

健康管理の3つのテーマでそれぞれ外部の講師による講演が行われた他、退職手当や退職後の共済組合短期給付について、本学の事務担当者から説明が行われました。

老後資金を確保するための家計把握や資産運用、現在及び今後の年金制度や年金の計算方法、生活習慣病予防に係る適度な運動の重要性、退職手当及びその税金の計算方法や退職後の医療保険等、内容は多岐にわたり、参加者からは「大変有益な内容だった」「参考になった」等の感想が寄せられました。



セミナーの様子

平成 25 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式

(総務課)

平成25年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式が11月25日(月)午前11時から第2会議室において挙行されました。

高橋信夫理事から被表彰者に対し、表彰

状の授与並びに記念品の贈呈が行われ、永年にわたる本学への貢献に対する感謝とお祝いの言葉が贈られました。

被表彰者は、次のとおりです。

北見工業大学永年勤務者表彰被表彰者 (50音順)

30年勤務者

氏名	所属学科等
菅野 亨	バイオ環境化学科
佐藤 満弘	機械工学科
森脇 幸伸	技術部

20年勤務者

氏名	所属学科等
後藤 文太郎	情報システム工学科
庄子 仁	環境・エネルギー研究推進センター
鈴木 聡一郎	機械工学科
谷口 秀俊	施設課
中垣 淳	情報システム工学科
三木 康臣	自然エネルギー実験室
山田 忠永	技術部



永年勤務者表彰式被表彰者

JST 北海道地域 5 大学 3 高専 1 公設試新技術説明会に参加

(社会連携推進センター)

独立行政法人科学技術振興機構(以下、JST)と北海道大学産学連携本部TLO部門が主催する題記説明会が、11月28日(木)・29日(金)両日、東京市ヶ谷のJST東京別館ホールで開催されました。JSTの新技術説明会は、大学、公的研究機関およびJSTの各種事業により生まれた研究成果の実用化促進を目的に、研究者が技術説明を行い、広く共同研究のパートナーや開発技術の実施企業を募る場です。今回は発表件数の増加を受け、2日間にわたる説明会となりました。

北見工業大学からは、情報システム工学

科前田康成准教授が「様々な産業に貢献可能な柔軟な知識情報処理」に関する研究の成果を、また機械工学科鈴木聡一郎教授が「ターン速度を向上するアルペンスキー競技用スキーブーツの開発」に関する研究の成果を紹介しました。会場には100人近い来場者があり、両先生のプレゼンテーション後には、具体的な共同研究の可能性に関する相談など、企業の方々との個別相談も行われました。研究の今後の発展に向けた有意義な広報・情報交換の場となりました。



発表する前田准教授



発表する鈴木教授

= 情報公開 =

財務諸表等の開示

(財 務 課)

国立大学法人法に基づき、平成25年9月24日付けで文部科学大臣の承認を受けた平成24(第9期)事業年度の財務諸表(附属明細書を含む)及び関係書類を、本学ホームページ

(http://www.kitami-it.ac.jp/public_relations/24.html)に掲載しましたので、お知らせします。

= 日誌 =

10 月

- 1日 秋季入学式
- 8日 知的財産研修
- 10日 オホーツク産学官融合センター事務局会議、社会連携推進センター運営会議
- 12日 父母懇談会（秋季・札幌）、高大連携協力に関する協定に基づく「ピアサポート事業」
- 16日 知的財産研修
- 17日 知的財産研修
- 18日 教務委員会、発明審査委員会、情報技術まちづくりフェア2013
- 23日 教育研究評議会、編入学試験（推薦入試）（第2次募集）出願受付（～29日）
- 24日 学生委員会、学術情報委員会、消防訓練の実施
- 27日 父母懇談会（秋季・東京）
- 28日 社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議
- 30日 学生選書ツアー
- 31日 大学院進学説明会

11 月

- 1日 推薦入試・帰国子女特別入試出願受付（～8日）
- 5日 教務委員会、月曜日授業振替、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 6日 安全衛生講習会、社会連携推進センター運営会議
- 7日 学長選考会議
- 12日 推薦入学者選抜実施委員会、入学者選抜委員会
- 15日 北海道地区生涯生活設計セミナー
- 20日 教育研究評議会、編入学試験（推薦入試）（第2次募集）面接試験
- 21日 学長選考会議、経営協議会、役員会、教育研究評議会
- 22日 学生委員会
- 25日 永年勤務者表彰式、推薦入学者選抜実施委員会、社会連携推進センター運営会議
- 27日 入学試験実施委員会
- 29日 推薦入試